

## 第2回日本リハビリテーション医学会秋季学術集会印象記

第2回日本リハビリテーション医学会秋季学術集会が、2018年11月2日（金）～11月4日（日）の3日間、仙台国際センターで開催されました。秋季の学術集会としては2度目であり規模も、大きな学会となりました。

私は今年度入局したのですが今年度7月に福岡市で開催された学会に参加できなかったのが今回の学会が初めての学会参加となりました。学会2日目に『肺高血圧症患者に対するリハビリテーション治療効果の検討』という演題で口演をさせていただきました。私の入局する以前から附属病院循環器内科と当科が連携して肺高血圧患者に対して



運動療法や評価としての6分間歩行を施行してきました。今回の口演は運動療法を施行しなかった患者群（対照群）と運動療法を施行した患者群5人（運動群）の6分間歩行距離（6MWD）を計測しました。評価のみの患者群では1回目6MWDは465.8±75.8m、2回目6MWDは494.5±86.5mであり、約28m増加しておりますが、1回目2回目の間に有意差は認められませんでした。運動療法を行った運動群では運動療法前（1回目）6MWDは343.6±122.0m、運動療法後（2回目）6MWDは458.0±98.6mであり、1回目2回目の間で約114m増加（ $p=0.037$ ）と有意な向上を認め肺高血圧症患者においても運動療法は運動耐用能を改善する有効な治療法であることを示すことができました。

学会2日目に中村教授が座長をされていた『脳卒中リハビリテーション医療における機能的予後と生命予後』のシンポジウムで、脳卒中急性期、回復期、生活期の各段階でのリハビリテーションの在り方についての口演を拝聴しました。口演では脳卒中発症24時間以内にリハビリテーション治療を開始した早期開始群は、それ以降に開始した対象群と比較して有意にFIMは改善し死亡率、再発率に差はなかったという和歌山県立医科大グループの報告がありました。早期開始群では重篤な麻痺がある急性期で意識レベルがJCSⅡと2桁の意識障害のある患者に対しても初回訓練から長下肢装具を装着して立位、歩行訓練を行っていました。訓練時、セラピストが複数人携わっておりマンパワーが充実していないと実施困難ではありますが、大学病院で急性期リハに携わるものとして大いに啓発されました。次学会ではハンズオンでボトックス施注講習の受講やポスターでリハ機器の体験をしたいと考えております。